

令和4年度 スポーツ庁委託事業

「地域運動部活動推進事業」 成果報告書

守口市教育委員会事務局
教育部 学校教育課



目 次

1. はじめに

(1) 守口市について

(2) 趣旨・目的

2. 令和4年度の実践研究について

(1) 実践研究内容について

(2) 守口市地域運動部活動推進事業における部活動検討委員会について

(3) 実践研究の成果等について

3. まとめ



1. はじめに (1) 守口市について

人口：142,168人（令和4年11月1日時点）

面積：12.71km²

人口密度：11,186人/km²

学校施設：小学校13校 5,347人

中学校7校 2,639人

義務教育学校1校 前期433人 後期201人

（令和4年5月1日時点）

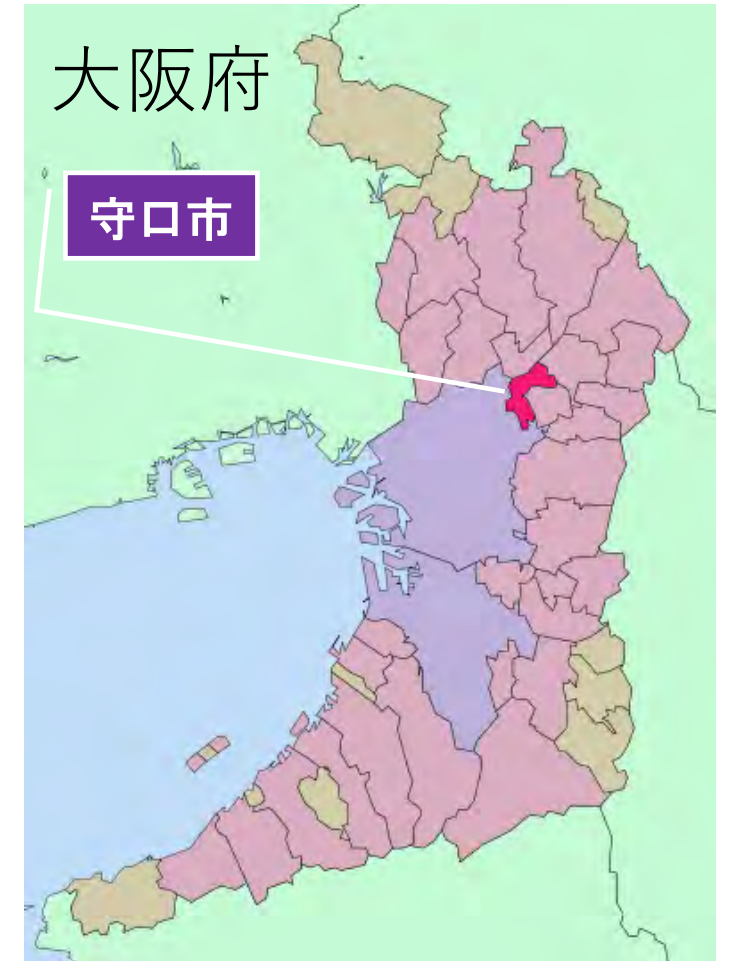
運動施設：守口市民体育館

大枝公園

淀川河川公園

部活動数：運動部104 文化部29

入部率：運動部60.0% 文化部23.2%



1. はじめに (2) 趣旨・目的

- ◎本市では、令和3年度スポーツ庁委託事業「地域運動部活動推進事業」の拠点地域として、「生徒にとって望ましい持続可能な部活動と学校の働き方改革の両立を実現する」ため、課題を洗い出し、解決に向け実践研究を行った。コロナ禍の影響により、当初の計画通りになかなか進めることができない状況はあったが、事業運営組織を2つのパターンで取組むことができ、参加している生徒のアンケートからも満足度の高い結果を得ることができた。
- ◎一方で、保護者への理解促進や、費用負担の在り方、事業を実施できる部活動が限られていることなど、取組むべき課題は残っている状況であることから、令和3年度の拠点校及び実施部活動を中心として、他の中学校等の部活動への拡充をはかるとともに、「生徒にとって望ましい持続可能な部活動と学校の働き方改革の両立を実現する」という目的を継続しつつ、課題解決に取組み、その過程並びに研究成果を府内及び全国へ普及していく。



2. 令和4年度の取組みについて (1)実践研究内容について

①達成目標及びその検証

【目標】

- ❑ 令和3年度事業から拠点校・実施部活動の拡充を行う。
- ❑ 生徒の満足度や専門的指導の充実度の向上につながるように取り組む。

【目標の検証】

- ❑ 拠点校を拡充することができたか
- ❑ 実施部活動を拡充することができたか
- ❑ 参加生徒及び保護者、拠点校教職員、運営団体指導員等へのアンケートや聞き取りを実施
- ❑ 「守口市地域運動部活動推進事業における部活動検討委員会(以下、「部活動検討委員会」)による協議



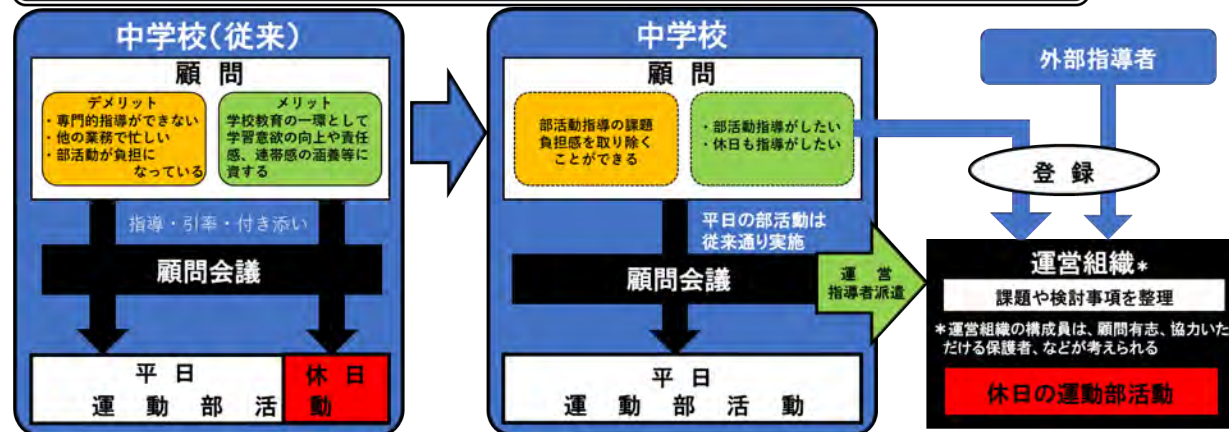
2. 令和4年度の取組みについて (1)実践研究内容について

②目標設定の背景

下記のゴールイメージのもと令和3年度事業実施で運営主体2団体、拠点校2校、3部活で実践することができた。

「地域運動部活動」運営組織図 ゴールイメージ【守口市】

令和5年度から休日の運動部活動が段階的に地域移行されるため、休日の指導を希望する教職員も今までのようには指導ができない事に → 休日の指導を希望する教職員が参画するための新しい組織

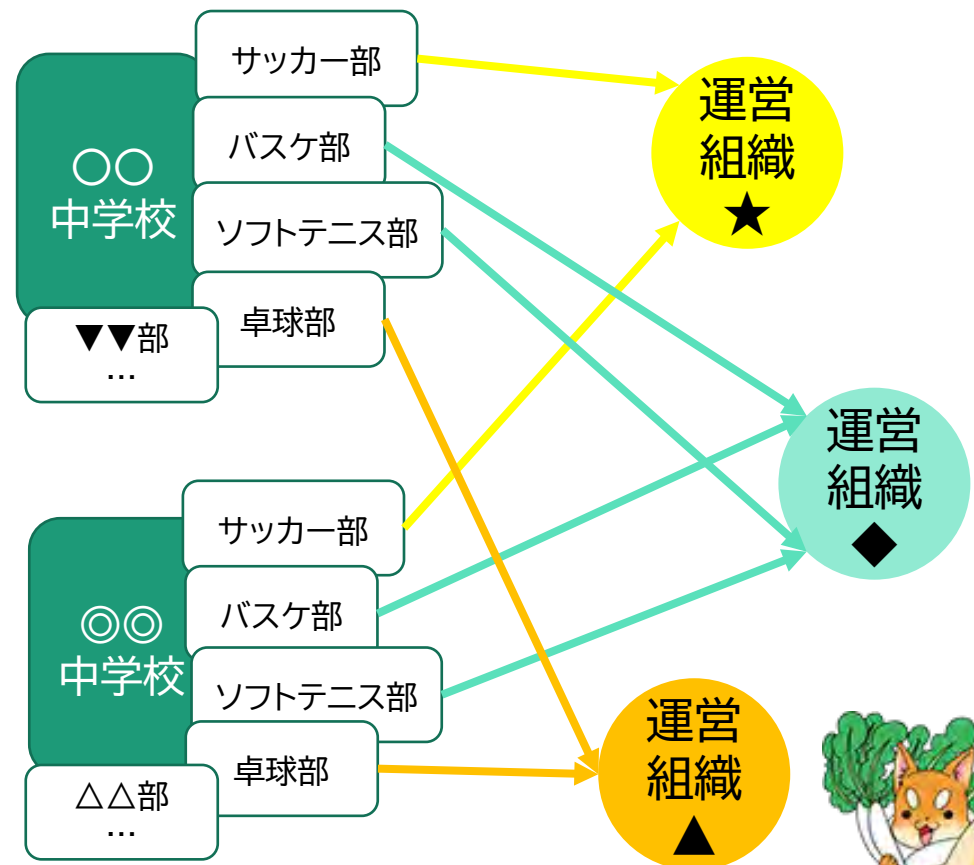


令和3年度重点推進項目

- ・中学校教員への丁寧な説明 ⇒ 中学校教員の理解・協力
- ・教員の負担を増やさずに成立する仕組みづくり

しかしながら、競技によっては、部員数の少なさからゲーム形式の練習をできない状況があった。
また、1つの運営組織で当該中学校の部活動をすべて運営する団体を見つけることは難しい状況があった。

令和4年度については、1競技において拠点校を複数校にして合同実施できること、実施部活動を拡充することで運営組織の拡充を図ることができると考えた。



2. 令和4年度の取組みについて (1)実践研究内容について

③運営組織1 地域の少年サッカーチームとの連携



リトルFC

- ・1985年より八雲小学校(八雲中学校区)を拠点にサッカー指導を始める
- ・八雲中学校区出身の指導者を中心に活動
- ・守口市内では、他に守口小(第一中学校区)、下島小(八雲中学校区)、淀川河川公園、大枝公園で活動
- ・八雲中サッカー部への外部指導歴あり



八雲中学校

生徒数:249人

教職員数:27人

部活動数:運動部8 文化部3

・令和3年度事業実施

・部員数:3年5人 2年13人 1年1人

※下線部は実践研究参加対象(以下同様)



第一中学校【令和4年度新規】

生徒数:471人

教職員数:33人

部活動数:運動部9 文化部3

・部員数:3年15人 2年8人 1年7人

・リトルFC出身者の部員が多い。

・八雲中とは校区が隣接している。

実施部活動	サッカー部
主な活動場所	八雲中学校運動場
実施頻度(原則)	毎週日曜日9時~12時
運営補助員数	2人 全体統括者と指導の運営補助員
指導者数	登録11人(うち有資格者1人) 1回あたり1~2人
運営補助員謝金	1,000円/時間(国事業費で活用)
指導者謝金	1,600円/時間(国事業費で活用)
指導者の保険	リトルFCで加入
生徒の保険	スポーツ安全保険(市費)
そのほか	リトルFCの小学生と一緒に活動



2. 令和4年度の実践研究について (1)実践研究内容について

リトルFC【八雲中学校・第一中学校】



小学校高学年と合同練習

成果

- 小学校段階から系統的な指導
- 練習に必要な人数を確保
- OBによる指導者の確保



2. 令和4年度の取組みについて (1)実践研究内容について

③運営組織2 企業との連携



幼児活動研究会(株)(以下、「コスモスポーツクラブ」)

- ・ 昭和47年に設立
- ・ 園児・小学生への体育指導や保育所の運営、幼稚園・保育園経営コンサルティング等子どもに携わる幅広い事業を行っている。
- ・ 守口市内の園所においても正課体操指導を実施している。



さつき学園

生徒数:249人 教職員数:27人

部活動数:運動部6 文化部2

- ・ 令和3年度事業実施
- ・ 女子バスケットボール部員数:9年9人 8年2人 7年7人
- ・ 男子ソフトテニス部員数:9年3人 8年2人 7年7人
- ・ 女子ソフトテニス部員数:9年11人 8年6人 7年6人
- ・ 女子ソフトテニス部については部員数が多く、大会参加も多かったため、大会参加と自校での練習に分かれて行うことが多々あり、部活動顧問が両方見れない状況があった。

実施部活動	女子バスケットボール部 男子ソフトテニス部 女子ソフトテニス部【令和4年度新規】
主な活動場所	さつき学園体育館・グラウンド
実施頻度(原則)	毎週土曜日9時~12時
運営補助員数	1人
指導者数	バスケットボール 登録6人 ソフトテニス 登録5人 いずれも1回あたり1~2人で指導
運営補助員謝金	1,000円/時間(国事業費で活用)
指導者謝金	1,600円/時間(国事業費で活用)
指導者の保険	コスモスポーツクラブで加入
生徒の保険	スポーツ安全保険(市費)



2. 令和4年度の取組みについて (1)実践研究内容について

コスモスポーツクラブ【さつき学園】



成果

- 技術面やメンタル面等で習熟した指導
- 練習メニュー等、平日の部活動へも好影響



2. 令和4年度の取組みについて (1)実践研究内容について

③運営組織3 守口市スポーツ協会【令和4年度新規】との連携



守口市スポーツ協会(守口市卓球協会)

- ・ 昭和29年に結成した守口市レクレーション協会連合と昭和30年に結成した守口市体育協会が昭和42年合併し、守口市体育連盟が結成される。平成30年にNPO法人守口市スポーツ協会が設立し、令和4年度時点で21団体が加盟している。
- ・ 令和4年度活動方針に学校部活動との連携を示しており、学校部活動と関係のある競技団体もある。

(3)スポーツを通じて青少年の育成をはかるとともに、指導者の育成に取り組む
 (略)市教育委員会とも協力しながら、部活動や放課後指導をはじめとして子どもたちが積極的にスポーツを楽しめる環境づくりも提案し、目指して参ります。(令和4年度活動方針より抜粋)

実施部活動	男女卓球部【令和4年度新規】
主な活動場所	さつき学園体育館
実施頻度(原則)	毎週土曜日9時～12時
運営補助員数	1人
指導者数	登録9人(うち有資格者2人) いずれも1回あたり1～2人で指導
運営補助員謝金	1,000円/時間(国事業費で活用)
指導者謝金	1,600円/時間(国事業費で活用)
指導者の保険	市卓球協会に加入
生徒の保険	スポーツ安全保険(市費)



さつき学園

- ・ 男子部員数: 9年12人 8年11人 7年5人
- ・ 女子部員数: 9年3人 8年5人 7年0人
- ・ 卓球部は市内においてさつき学園のほか2中学校のみ(女子はさつき学園のみ)である。
- ・ さつき学園として、校内の部活動をすべて地域移行することを当初から希望していた。



2. 令和4年度の取組みについて (1)実践研究内容について

市卓球協会（市スポーツ協会） 【さつき学園】



成果

- 技術面やメンタル面等で習熟した指導
- 練習メニュー等、平日の部活動へも好影響
- 地域の社会人等による指導者の確保



2. 令和4年度の取組みについて (2)部活動検討委員会について

①目的

守口市における地域運動部活動推進事業を実施するにあたり、関係者の合意形成、実践研究の実施方針の決定、拠点校における実践の共有や検証、域内への普及方法の検討などを行う。

②委員構成

	委員所属	委員職名	委員名
委員長	守口市教育委員会事務局教育部学校教育課	課長	棹本 達也
副委員長	守口市市民生活部生涯学習・スポーツ振興課	課長	宮垣 義隆
拠点校	守口市立八雲中学校	校長	寺本 毅
	守口市立さつき学園	副校長	原田 英和
地域	守口市立八雲中学校区学校運営協議会	委員	尾崎 英和
	守口市立さつき学園学校運営協議会	会長	杉本 清
実施団体等	NPO法人守口市スポーツ協会	理事長	寺村 宏
	NPO法人守口市スポーツ協会	副理事長	吉富 啓文
	リトルFC	代表	岩鼻 昭憲
	幼児活動研究会株式会社コスモスポーツクラブ	関西ブロック次長	関内 健

アドバイザー：小林 博隆

大阪体育大学体育学部
スポーツ教育学科 准教授



2. 令和4年度の取組みについて (2)部活動検討委員会について

③検討事項(全5回)

	検 討 事 項
第1回 (9月)	<ul style="list-style-type: none">・ (報告) 守口市立中学校並びに義務教育学校の部活動の状況について・ (報告) 令和3年度の地域運動部活動推進事業について・ (報告) 令和4年度の地域運動部活動推進事業の取組み状況について・ (協議) 市部活動検討委員会の予定について
第2回 (10月)	<ul style="list-style-type: none">・ (報告) 地域運動部活動の取組み状況について・ (協議) 各取組みにおける目的・目標について
第3回 (11月)	<ul style="list-style-type: none">・ (報告) 地域運動部活動の取組み状況について・ (協議) 各取組みにおける指導者の確保について ※教職員の兼職兼業含む
第4回 (12月)	<ul style="list-style-type: none">・ (報告) 地域運動部活動の取組み状況について・ (協議) 各取組みにおける費用について
第5回 (1月)	<ul style="list-style-type: none">・ (報告) 地域運動部活動の取組み状況について・ (協議) 報告書の内容について



2. 令和4年度の取組みについて (2)部活動検討委員会について

④協議内容と共有事項について

第2回 各取組みにおける目的・目標について 委員の意見(一部)

- ・ 最近、多様性の中で、生涯にわたって楽しむとか、あるいはその競技自体が楽しいんだということで参加する子どもたちもいる。どう持っていくのかなというところは正直悩ましい。今後どう変わっていくべきかというところを含めて、我々が考えていく課題。
- ・ 学校における部活動に関しては、勝つことも1つの目標であって、いろんな目標があっていいと思う。
- ・ まず一人の人間として成長していこうという考えがある。目標はサッカーの部分、サッカー以外の部分も、特に人間として成長していったら、10年、20年後とか30年後、この地域に貢献できる人間性を築いてほしい。
- ・ 失敗したときに自分の力で立ち上がったたり、友達と衝突したときにそれを修繕できる力を、という思いから、いつも失敗を「どんどんしなさい」と指導している。
- ・ スポーツの果たす意義や役割を考え、生涯スポーツの普及に向けた環境づくりに取り組んでいる。
- ・ 報道の中で、今の中学校の部活動で期待、重視するものは何ですかという質問に対して、ベスト3の答えが心身の成長、達成感や充実感、そして仲間づくりが上がっていた。コミュニティスクールの最大の狙いが、学校教育で生きる力の育成、また豊かな学校生活の実現を目指しているの、クラブ活動をいい形でやれば、それにまさしく合っていると考えている。

など

【共有事項】

学校教育で生きる力の育成、また豊かな学校生活の実現を目指しているの、地域移行された活動でも生徒たちの人間性を高めていくことが必要。



2. 令和4年度の取組みについて (2)部活動検討委員会について

④協議内容と共有事項について

第3回 各取組みにおける指導者の確保について ※教職員の兼職兼業含む 委員の意見(一部)

リトルFC	コスモスポーツクラブ	市スポーツ協会
<ul style="list-style-type: none"> ・大学生を中心に活動に意欲的に来てくれる方を派遣している。 ・活動人数が増えて更なる指導者の確保が必要となっても、今のところできない事はないが、想定を超えて人数が増えた場合、対応に困るといのはある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関西ブロックの社員を対象に希望調査を実施し、参加への意欲や意向も確認して派遣している。 ・他校に広げるとなると指導者の確保は厳しくなるのかなと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卓球協会の理事の方を中心に技術的にもレベルの高い指導者を派遣している。 ・他校区に広げたり、他の種目の部活動に広げる場合については、21団体あるので、いつでも協力体制出来るような状況と考えている。

- ・今の学校の指導のあり方とというのが大きく変わっており、兼職兼業は非常に難しいだろうと正直思っている。
- ・教師の本業は授業だと思う。クラブ活動は日本独特のある意味ではいい形。これからの流れというのはきれいに分けていかなかったらいけないかなと思う。
- ・部活動の指導は教師がやるべき、という風潮は感じられつつも、社会の変化の中、授業や学校を取り巻く様子が大きく変わっていることから、今後も継続して教師が担っていくことについては難しさもある。指導者の数が足りないから教師がやるべきとか、そんな含みを残すとあまりいい方向ではないと思っている。
- ・部活動を指導したい先生には、業務がきちっと遂行できていることを確認した上、認めていかなければならないのではないかなど

【共有事項】

教職員の兼職兼業ありきで進めるのではなく、地域移行の方向性にあった形で指導者を確保していくべき。



2. 令和4年度の取組みについて (2)部活動検討委員会について

④協議内容と共有事項について

第4回 各取組みにおける費用について 委員の意見(一部)

- ・子どもたちのニーズに合った場を用意することとともに、事業者の正当な対価の理由にもつなげるため、指導するレベルによって対価に差をつけるのは、受け入れやすいのではないか。
- ・これから地域移行を進めていく上で、指導者は必ず複数必要だと思うので、そういった部分ではより一層、費用がかかる。
- ・学校はボランティアという感覚が根強くあるが、1人の大人を休みに拘束して、それに見合ったお金は準備してやるべきでは。
- ・部活動は、個人負担の部分はあるものの、指導者の部分のかかってくるお金、あるいはいろいろなものがかかっていること自体は見える化していった上で、全体で考えていかなければならないのでは。
- ・これまでに、対価によって、指導する人の集まり方が大きく変わると実感したことがあった。
- ・この学校は4回できたが、ほかの学校は1回しかできなかったなど、各学校の活動が変わってくる一方、金額が一律ということがあれば、不満が出ると思う。
- ・お金が発生することで、指導者の意識も向上していくこと、また専門性を保つためにはお金が必要であることがある一方、支払いに対するサービスの質が問われることもあるだろう。

【共有事項】

費用負担については、公費で賄っていく必要性和保護者の方に理解を得て保護者からの負担をいただくことの2つの視点がある。今後も子どもたちが楽しく活動できるように、仕組み作りの議論が必要。



2. 令和4年度の実施について (2)部活動検討委員会について

④協議内容と共有事項について

平日の学校部活動と休日の地域部活動の連携について		
リトルFC	コスモスポーツクラブ	市スポーツ協会
<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校の顧問から、練習メニューの相談を受けることや、平日の練習内容を休日の練習に反映させたりするため、方向性を確認したりするなど連携を図ることで参加生徒が活動しやすいようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 部活動検討委員会の中で出た話題から、顧問を通じて、参加生徒と練習内容を中心に書き込む「練習ノート」のやり取りを行った。練習内容の共有にとどまらず、参加生徒自身の指導に対する理解が深まったり、顧問も休日の様子が把握できたりするなど、より良い取り組みに向けてプラスとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 練習の流れの違い等で参加生徒が困惑しないよう、練習内容の共有や参加生徒の様子について顧問と共有しながら進めている。 ○ 安全管理等については学校部活動と同様の対応ができるようマニュアル等を共有したい。

拠点校

〈守口市立八雲中学校〉〈守口市立第一中学校〉
 ○ クラブ数が減少している状況の中、滑り出しから順調ということではなかったものの、活動を維持できることが子どもたちにとって良いことだと感じており、学校としてもありがたいと考えている。

〈守口市立さつき学園〉
 ○ コスモスポーツクラブや市スポーツ協会から来ていただいている中、競技へ取り組む姿勢の面も含め、専門的な指導が行われていることについて、生徒も顧問も喜んでいる。事業について今後も進めてもらいたい。



2. 令和4年度の取組みについて (3)実践研究の成果等について

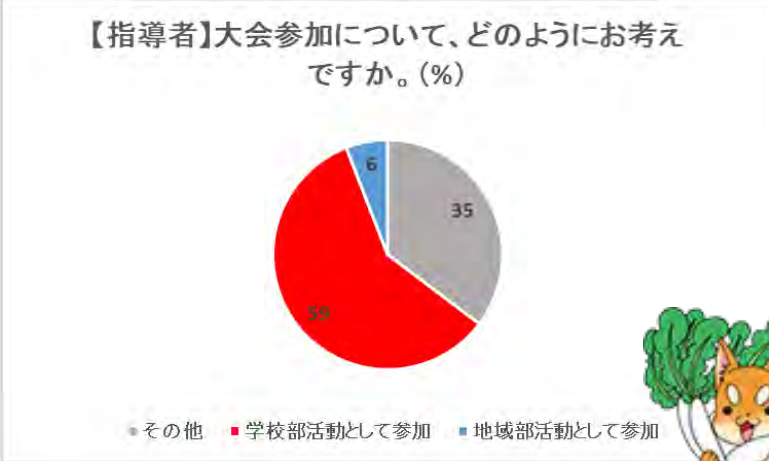
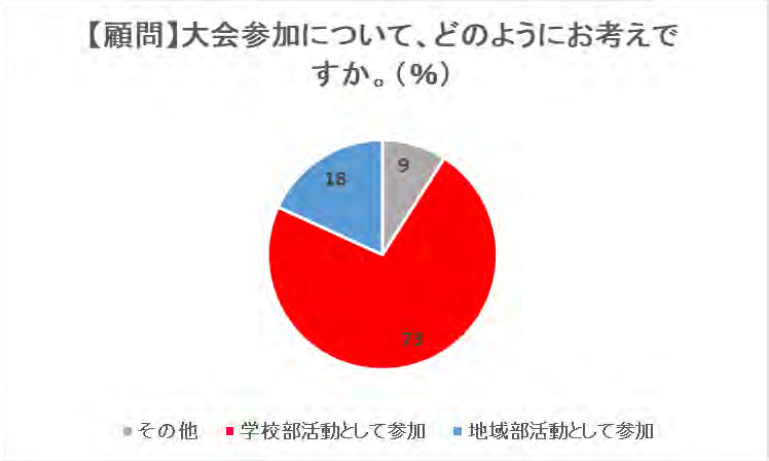
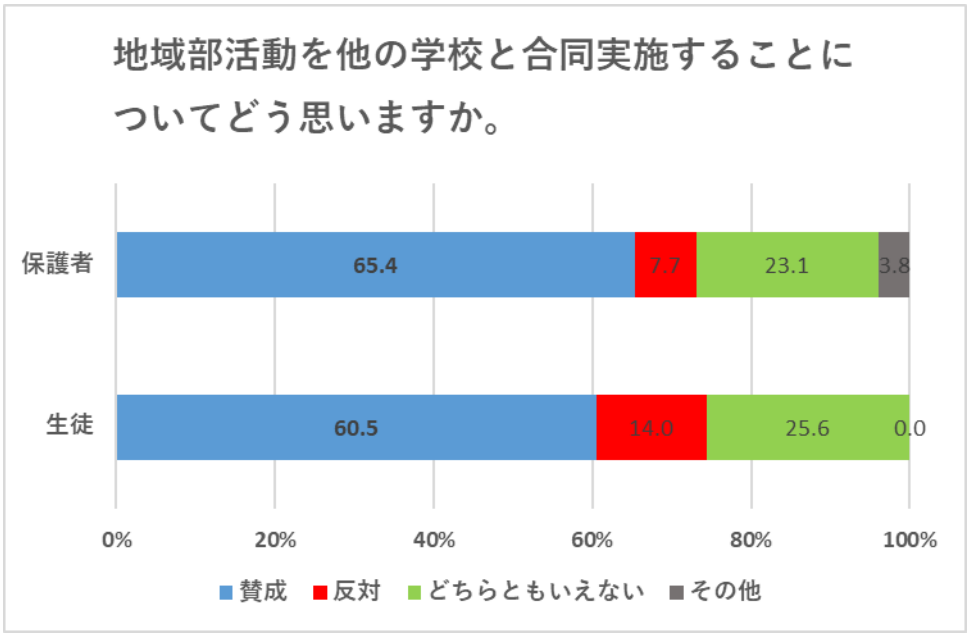
①アンケート結果より1

【複数校合同での地域部活動実施について(生徒・保護者)】

- ・ 生徒、保護者いずれも肯定的意見が多い
- ・ 反対の意見では、移動面や人数が増えることで配慮が行き届かなくなることを危惧する意見がある

【今後の大会参加について(顧問・指導員)】

- ・ 顧問教員では、「学校部活動として参加」として参加の意見が多い
- 一方で、指導員の方に比べ、「地域部活動として参加」に対して肯定的に捉えている



2. 令和4年度の取組みについて (3)実践研究の成果等について

①アンケート結果より2

【費用面について(保護者アンケートより)】

- ・ 0円と回答された数が最も多いものの、金額の差異はあれど、費用負担が発生することについては概ね妥当であると捉えている状況が見られた

- ・ 意見としては、

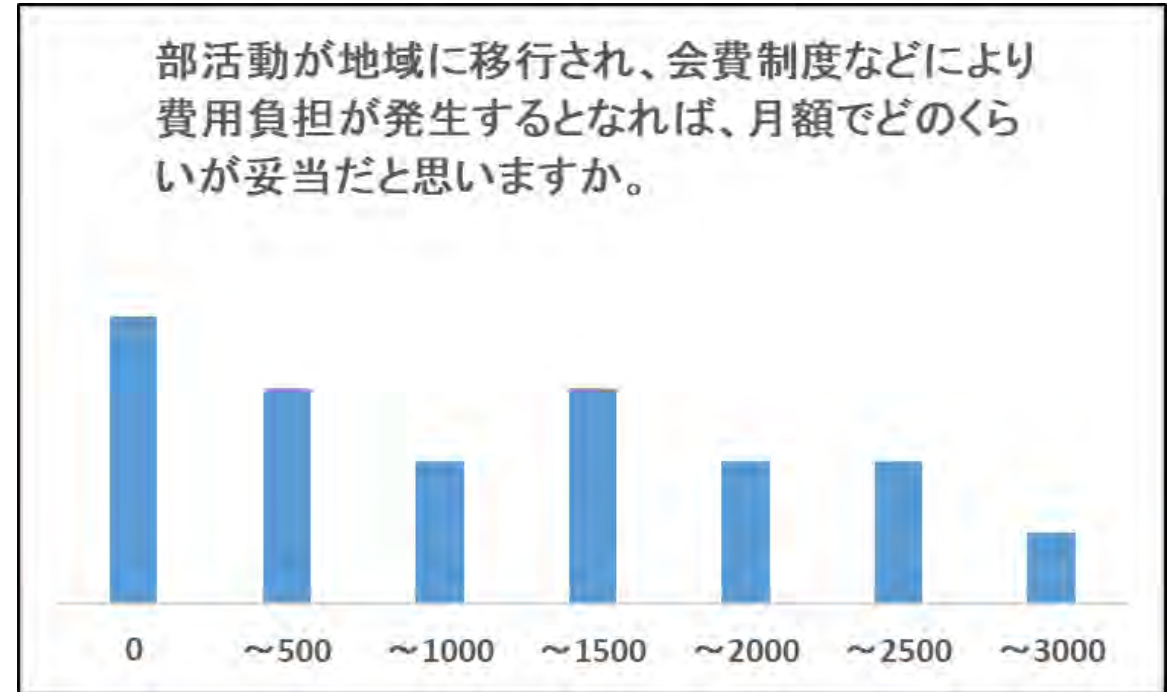
義務教育の部活動に支払い義務がない

本来教員が担うべきところをお願いしているのだから、学校や市が払うべき

部活動として考えるのであれば、費用を取るのはおかしい

とある一方、

ボランティアではないので、指導を受けている以上は払うべき、といったものも見られた



2. 令和4年度の取組みについて (3)実践研究の成果等について

①アンケート結果より3

【その他ご意見等(生徒・保護者・顧問・指導員アンケートより)】

- ・保護者の方の多くは指導に対する感謝の声
- ・一部の保護者から、部活動によっては、土日に大会があるため、地域部活動に参加できない場合がある、との声があった
- ・生徒からは、学校部活動と地域部活動の連携を深めて、練習や試合をより充実させたい旨の声があった
- ・顧問教員について、肯定的な意見が多い一方、現在の調査研究においては、(様子を見るため学校へ詰めている状況から)以前と変わらないと受け取っている教員もいる
- ・指導員・運営補助員について、やりがいを感じていただいている一方、国の補償や人材確保について懸念する声がある



2. 令和4年度の取組みについて (3)実践研究の成果等について

②成果と課題のまとめ

【成果】

- 運営団体及び実施部活動を拡充するとともに2校による合同実施を研究することができた
- 運営団体の工夫により平日と休日の指導の連携を図ることができた
- 実施部活動における生徒・保護者・教員の部活動改革について理解を進めることができた
- 部活動検討委員会において目的・目標の共通理解をはかるとともに教職員の兼職・兼業も含めた指導者の確保や費用負担の在り方について多面的に協議を行うことができた

【課題】

- 実施部活動以外の生徒・保護者への理解促進とその方法
- 実施部活動拡充に向けて、運営団体の確保及び指導者の確保
- 保護者の費用負担の在り方



3. まとめ

【どのようにして、それぞれの課題を克服していくのか】

令和4年度実施部活動について事業を継続しつつ、地域移行に係る計画の策定を行う

- 実施部活動以外の生徒・保護者への理解促進とその方法
- 実施部活動拡充に向けて、運営団体の確保及び指導者の確保
 - ☞ 事業継続により、拠点校の拡充を図ることができ、部活動改革に関わる生徒・保護者を増やしていく。
 - ☞ 地域移行に係る計画の策定に向けた会議の開催により、運営団体との連携を図ることができ、実施部活動の拡充についても検討することができる。
- 保護者の費用負担の在り方
 - ☞ 現時点で、実施部活動について保護者への費用負担は考えていない。地域移行に係る計画の策定において、公費で賄っていく必要性等も視野に入れつつ、どのように進めていくのか検討していく。



3. まとめ

【どうしたら関係団体と円滑に地域移行を推進できる体制を構築できるか】

- 「生徒のスポーツライフの充実」「社会全体で、生涯を通して、スポーツに親しむ意識の醸成」という共通視点を持つこと
 - ・ 学校部活動だけでは、生徒の様々なニーズに応えることができなくなっている
 - ・ 中学生段階だけでなく、幼児から大人までを対象として考えることも必要

【どのような支援が拠点校の取組や関係団体の協働を効果的に促進することができるか】

- 学校に対しては休日の地域移行だけでなく、平日における学校部活動との連携を視野に入れること
- 運営団体に対しては、活動場所の確保や学校施設の備品等の共有など、学校部活動として活用しているものの共有
 - ・ 地域移行により、学校部活動と地域部活動が完全に切り離されるわけではない

【どうすれば改革の取組を円滑に他地域に普及していけるか】

- 地域移行については、種目単位で進めていくという方向性のもと、教職員に理解促進を図っていく
 - ・ 学校内でも種目によって、運営団体や指導員の確保など地域移行への課題は様々
 - ・ ひとつの学校でできた種目についてはそこを拠点に拡充していけると考える

